

ことばだより

Vol.4

2021（令和3）年11月

連載

「全国学力・学習状況調査」を 日々の授業に生かす

埼玉大学准教授
もとはしゆきやす
本橋幸康

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果が公表され、次のような課題が指摘されています*。

- ◆文の中における主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係を捉えること（言葉の特徴や使い方に関する事項）
- ◆目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること（書くこと）
- ◆目的に応じて、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けること（読むこと）
- ◆目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること（読むこと）

〔下線は筆者による〕

児童の解答状況に着目して改めて児童の実態や課題を捉え直し、授業づくりを工夫しましょう。

1. 無解答に着目する

「時間がなかったから」「問題が難しかったから」など、無解答の原因を検討しましょう。「どのように答えればよいかわからなかった」というように問い自体が理解できていない場合には、普段の授業においても発問・指示を理解せず、なんとなく答えたり、言われるがままに言語活動に取り組んだりしているかもしれません。また、「自信がなかったから」という場合には、教室ではまちがいをおそれて発言しにくい状況かもしれません。無解答の児童の実態から授業づくりを見直してみましょう。

2. 解答類型に着目する

全国学力・学習状況調査では、どのようにまちがえているのか誤答の解答状況を解答類型別に示しています。記述式の問題では、問いで示された正当の条件を満たしていない誤答が目立ちました。

③二（正答率56.7%）の誤答で最も多かった解答類型3（12.0%）は、条件で示されている「【西田さんの話】から言葉や文を取り上げ」ることができていない解答でした。そもそもの西田さんの話を用いて文章を書き直そうとする丸山さんの意図を捉えていないという課題が指摘されています*。②三（正答率34.6%）の誤答で最も多かった解答類型4（39.0%）、②四（正答率29.9%）の誤答で最も多かった解答類型5（44.5%）についても、単純に「条件」を読んでいる（読んでいない）というよりは、条件で示された目的や意図に応じた言語活動に取り組むことの課題が示されていると捉えることができるでしょう。授業を通してどのような力（指導事項）を身につけるのかを明確にして、目的や意図に応じた言語活動に取り組む授業づくりを工夫することが大切です。

3. 授業アイデア例を参考にする

国立教育政策研究所『令和3年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた小学校授業アイデア例』（令和3年9月）には、問題ごとの課題や授業改善のポイントが丁寧に整理されています。各自治体もこうした事例を公開しています。これらを参考にしながら授業を充実させましょう。



つきたい力を明確にした 説明文の指導の工夫

～三下『川をさかのぼる知恵』の学習を通して～

さいたま市立本太小学校教諭 もとぶと つじ つじ あゆみ

① 単元名

「上手な説明の仕方」って何だろう！？ 新3年生に伝わるように、「前転のやり方」を説明しよう！

② 教材名

川をさかのぼる知恵（三下）

③ 目標

- ・主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。 〔知識及び技能〕 (1) カ
- ・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。 〔思考力、判断力、表現力等〕 C (1) ア
- ・粘り強く、接続する語句と段落相互の関係について考え、学習課題に沿って、「前転のやり方」を説明する文章を書こうとしている。 「学びに向かう力、人間性等」

④ 学習指導計画

次	時	学習課題	学習活動
第1次	1	単元の学習課題と学習計画を立てよう。	単元の学習課題と学習計画を立て、単元の見通しをもつ。
第2次	2	筆者は、『川をさかのぼる知恵』という説明文を通して、どんなことを説明しているのだろう。	本文を読み、問いと答え、筆者の考えとその事例を確認める。
	3	筆者は、どのような工夫をして9～14段落を説明しているのだろう。	筆者の説明の仕方を確かめ、接続する語句によって段落相互の関係がつけられていることを理解する。
	4	1～6段落と16～18段落には何が書かれていて、どんな役割をしているのだろう。	1～6段落（問いの前提に必要な説明）と16～18段落（事例2）の役割を確認する。
	5	これまでに学習した「説明の仕方」を整理して、「前転」の説明で使えそうなものは何か考えよう。	学習を整理し、知識を整理・再構築する。
第3次	6	「上手な説明の仕方」を使って、新3年生に伝わるように「前転のやり方」を説明する文章を書こう。	自分でワークシートやヒントカードを選び、学習したことを活用しながら前転のやり方を説明する文章を書く。
	7	書いた説明文を読み合って評価し、「上手な説明の仕方」とは何か、わかったことをまとめよう。	成果物を見合い、接続する語句の役割や段落相互の関係について学習をまとめ、他教科や生活につなげる。

1. はじめに

本教材は、埼玉県さいたま市にある「見沼通船堀^{みぬまつせんぼり}」について書かれた説明文です。文章量は少ないものの、3年生の児童にとって閘門式運河^{こうもん}の仕組みを理解することはとても難しいことだと思われます。また、文章が難しいからこそ、先生がたも指導の際に内容を理解させることに重点を置いてしまうことが予想されます。特にさいたま市では、4年生の社会科で見沼代用水と見沼通船堀について学習を行います。そのため、『川をさかのぼる知恵』を「見沼通船堀についての学習だ」と思ってしまうと、国語科ではなく社会科の学習になってしまいます。

本教材は、国語科の学習で扱う説明文であり、「見沼通船堀」について理解させることが主たる目的ではありません。まずはそのことを念頭に置いて指導していくことがとても大切です。

2. 教材文の特徴と指導事項について

では、『川をさかのぼる知恵』では、何を指導すればよいのでしょうか。

教科書では、単元名として「図や写真と文章を、むすびつけて読もう」とあり、説明文の中には多くの図や写真が使われています。図や写真を用いることで、難しい閘門式運河の仕組みを読者に理解させるための補助としているのです。この「文章と図表などを結び付ける」学習は高学年C(1)ウに示されている指導事項です。そこで、3年生の段階では「文章と図表などを結び付け」て読むことを直接的なねらいにするのではなく、図や写真を手掛かりにしながら読むことで、筆者が段階的に説明していることを捉えられるようにします。

本教材は、接続する語句によって文章がつながり、段落相互の関係をつくりだしていることがわかりやすく示されていることが特徴です。第7段落で問いが提示され、第8段落から船が高低差のある水路を移動する仕組みを「見沼通船堀」を事例にあげて、図を用いながら段階的に説明しています。また、同様の事例として「パナマ運河」があげられています。

説明の段落は「まず」「次に」「さらに」といった順序を表す語句でつながられています。また、「どのようにして～でしょうか」「そこで～でした」「このように」など

の語句を使うことで、問いと答えや事例、まとめといった段落相互の関係をつくりだしています。

このような教材文の特徴から、本単元では接続する語句の役割や段落の役割について理解したり、接続する語句によってつくられた段落相互の関係に着目しながら読んだりする力が身につくよう目標を設定しました。

3. 単元の学習課題と学習のゴールについて

本単元では、「一度にはかいつできない課題を、いくつかに分けてかいつすること」の新たな事例として、体育科で学習した「前転のやり方」を次の3年生に伝える文章を書くことを学習のゴールに設定しました。

「前転のやり方」も図を使いながら幾つかに分けて説明する必要があるため、学習したことを生かして書くことができます。一方で、説明する相手(読者)や内容を考えたときに、『川をさかのぼる知恵』の第1～6段落のような問いの前提となる詳しい説明を入れるべきか検討する必要が出てきます。また、児童は第16段落以降の役割を「パナマ運河の事例をあげることで、さいたま市から世界に例が広がり、説得力が増している」と考えましたが、自分たちが前転について次の3年生に説明する際に、他の事例をあげる必要があるかについても検討しなければなりません。

このように、相手や目的を変え、自分が書き手にまわることによって、児童は前後の文節や文などをつなぐための接続する語句を適切に使ったり、書き手の考えがどのような事例によって具体化され、説明されているかについて理解を深めたりすることができます。

4. おわりに

国語科の学びを深めるためには、書かれている内容を理解させることに重点を置くのではなく、教材文の特徴から国語科で学ぶ力を考え、教材研究を行うことが大切です。つきたい力を明確にして学習を進めることで、国語科の学びを深めていきましょう。

「まなびリンク」を使ってみよう



小学校国語「まなびリンク」
ウェブサイトはこちらから↑↑

令和2年度版の『ひろがる言葉 小学国語』には、教材とウェブサイトを連動させた「まなびリンク」という仕掛けがあり、教科書紙面に掲載できなかった補足的な資料を、ホームページ上で見ることができる。資料のあるホームページの特設サイトへは、教科書冒頭の「〇年生で学ぶこと」の末尾の二次元コードを読み取るか、併記したURLを入力することでアクセスができる。

前回ご紹介した「まなびリンク」について、実際どのようなコンテンツがあり、授業にどう活用できるかを見てみましょう。

まず、各学年の上巻冒頭にあるアイスブレイク教材では、どのような活動をすればよいかわかるよう短い動画を用意しています。授業の最初にこの動画を見て、活動の様子をつかんでから、実際に活動するとよいでしょう。



▲「じこしょうかいビンゴゲーム」のやり方

また、2年下巻『おもちゃのせつめい書を書こう』では、おもちゃの作り方・遊び方の動画を用意しています。教科書で説明書の例として紹介されている紙コップ玉入れだけでなく、そのほかのおもちゃの例として、ゴムではねるかえるの動画も用意しています。年末の行事などにより、おもちゃを作る時間の捻出が難しい場合には、この動画をもとに説明書を書かせてみてはいかがでしょうか。



▲ゴムではねるかえるの作り方・あそび方

前号の繰り返しになりますが、特設サイトで掲載している資料には、「読むこと」教材の作者紹介のPDFや発展的な資料としての動画や写真、「書くこと」や「話すこと・聞くこと」教材のメモや話し合いの例の全文、更に外部サイトへのリンクなど、多様なものがあります。

「まなびリンク」をうまく活用することで、教科書を飛び出し、授業に広がりをもたせていただければ幸いです。

本誌の
デザイン

『小学国語通信 ことばだより』では、デザインに季節ごとの「かさねの色目」(平安時代以降の服飾文化に用いられた色彩)をイメージした配色を用いています。今回の号では、秋のかさねの色目の中から「朽葉」を選びました。『落窪物語』にも見られるこの色目は、当時の衣の色に愛用されていたことが知られていません。ぜひ次号のデザインもご覧くださいますと幸いに存じます。

※「かさねの色目」の組み合わせには、諸説あります。

小学国語通信 ことばだより Vol.4 2021(令和3)年11月発行

 教育出版株式会社 編集局 国語科

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 TFT ビル西館

TEL: 03-5579-6278 (代表)